

科目名称：	初級日本語 I	
担当者名：	桜井 正美, 長田 明子, 田中 裕子, 寺崎 祐子, 鹿野 みどり	
区分	授業形態	単位数
留学生別科に関する科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
初級文法を理解し、日常生活に必要な基本的な会話能力、聴解能力を身につける。また、短い読み物を読んだり、身近な事柄について書いたりする力を養う。		
授業の達成目標・到達目標		
本科進級前の予備教育として、初級文法を習得し、定着させ、運用する実力を身につけることを大前提とする。そのため「読む、書く、聞く、話す」の4技能がバランスよく身につくよう、日本の文化や習慣に関する短い読み物を読み、身近な日記風のものから文化の違いなどについての感想を書き、日常生活で役に立つ自然な会話を理解し、自分の体験や考えなどが正確に表現できるようになることを目標とする。また、母語からくる発音や発話の癖を矯正し、コミュニケーションが滑らかに行えるようになることも到達目標とする。		

留学生別科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)	60		15	25	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし		
備考		

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
文法理解	文法構造を理解し正しく使え、様々な場面で応用できる	文法構造を理解し正しく使うことができる	文法構造を理解し不正確であっても、使うことができる	文法構造を正しく理解できない
書くこと	身近で個人的な事柄ならある程度まとまった文を書くことができる	身近で個人的な事柄ならある程度まとまった簡単な文を書くことができる	身近で個人的な事柄なら簡単に短い文を書くことができる	身近で個人的な事柄について短い文でも書くことが困難

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「みんなの日本語Ⅰ」復習	語彙・文法の予習(第1回)	30分
第2回 「みんなの日本語Ⅰ」復習、作文	語彙・文法の復習(第1回)及び予習(第2回)、作文作成	30分
第3回 「みんなの日本語Ⅰ」復習、作文	語彙・文法の復習(第2回)及び予習(第3回)、作文作成	30分
第4回 「みんなの日本語Ⅱ」L27、作文	語彙・文法の復習(第3回)及び予習(第4回)、作文作成	30分
第5回 「みんなの日本語Ⅱ」L29、作文	語彙・文法の復習(第4回)及び予習(第5回)、作文作成	30分
第6回 「みんなの日本語Ⅱ」L31、作文	語彙・文法の復習(第5回)及び予習(第6回)、作文作成	30分
第7回 「みんなの日本語Ⅱ」L33、作文	語彙・文法の復習(第6回)及び予習(第7回)、作文作成	30分
第8回 復習(L31~L35を中心に)、作文	L31~L35の復習をまとめておく、作文作成	30分
第9回 「みんなの日本語Ⅱ」L37、作文	語彙・文法の復習(第8回)及び予習(第9回)、作文作成	30分
第10回 「みんなの日本語Ⅱ」L40、作文	語彙・文法の復習(第9回)及び予習(第10回)、作文作成	30分
第11回 「みんなの日本語Ⅱ」L42、作文	語彙・文法の復習(第10回)及び予習(第11回)、作文作成	30分
第12回 「みんなの日本語Ⅱ」L44、作文	語彙・文法の復習(第11回)及び予習(第12回)、作文作成	30分
第13回 「みんなの日本語Ⅱ」L46、作文	語彙・文法の復習(第12回)及び予習(第13回)、作文作成	30分
第14回 「みんなの日本語Ⅱ」L48、作文	語彙・文法の復習(第13回)及び予習(第14回)、作文作成	30分
第15回 総復習、プレゼンテーション	語彙・文法の復習	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、語彙・文法の復習及び予習・スピーチの準備をすることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
宿題 15%、授業への積極的関与・授業内での発表 25%の総合評価

課題に対するフィードバック

授業内での発表について、コメントをフィードバックする。

教科書・参考書

教科書:『みんなの日本語初級Ⅰ』『みんなの日本語初級Ⅱ』教科書の該当ページを開きながら解説・運用練習を行う
参考書:『みんなの日本語初級Ⅰ 翻訳・文法解説書 各国語版』『同Ⅱ』以上スリーエーネットワーク発行